

王子保っ子の力(学力と学習)

令和4年度全国学力学習状況調査から
(令和4年4月19日に第6学年児童を対象に実施)

今年度は、「国語」と「算数」と「理科」の学力調査が行われました。学習状況調査の結果についても紹介します。

国語

＜学習指導要領の5領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」）の結果から＞



【良いところ】

- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域において、【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する問題では、話し言葉と書き言葉との違いや、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることをきちんと理解していて、学年全体としても大変良好な結果です。
- ・「読むこと」の領域において、「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する問題では、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとにとらえることができています。また、物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】のAに入る内容を書く問題では、人物像や物語の全体像を具体的に想像することができています。
- ・「我が国の言語文化に関する事項」の領域において、硬筆（書写）の手紙を書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する問題では、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができています。

【伸ばしたいところ】

- ・「書くこと」の領域において、【伝え合いの様子の一部】をもとに、書き直した文章のよさを百字以内にまとめて書く問題で、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がみられました。
- ・漢字を文の中で正しく使う問題では、「反省」、「親しむ」という漢字の誤答が見られました。

学校では、文章と図表などの資料を読み取るとともに、それらを関連付けて読むことを通して、内容を理解したり、解釈したりする学習活動や、目的に応じて必要な情報を見つけながら読み、元の文章の構成や表現を生かしながら短くまとめる学習活動に力を入れていきます。今後も朝読書を継続し、文章に触れる時間をつくっていきます。また、新聞を教材として活用し、内容をまとめたり、討論の話題にしたりして学ぶNIEにも取り組み、新聞を読む活動も増やしていきます。

児童のみなさんは、相手や目的、自分の意図、場面や状況に応じて、話したり、聞いたり、書いたり、読んだりすることを意識して、これからの学習に取り組んでいきましょう。また、漢字の学習をするときは、ただ覚えるだけではなく、漢字辞典や国語辞典、iPadを使って、漢字の成り立ちやそれを使った熟語やその意味などを調べたり、その漢字を使って文章を書いたりしましょう。

算 数

〈学習指導要領の4領域（「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」）の結果から〉



【良いところ】

- ・「数と計算」の領域において、カップケーキ7個分の値段を $1470 \div 3$ で求めることができるわけを書く問題では、示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を言葉と数を使って書くことができていました。また、1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く問題では、加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを式や言葉を使って書くことができています。
- ・「図形」の領域において、長方形のプログラムについて向かい合う辺の長さを書く問題では、図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方についておおむね理解することができています。

【伸ばしたいところ】

- ・「数と計算」の領域において、被乗数に空位のある整数の乗法の計算(1050×4)をする問題や二つの数の最小公倍数を求める問題、 85×21 の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ問題に課題がみられます。
- ・「図形」の領域において、示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題で、正三角形の意味や性質をもとに、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考えて、言葉と数を使って書くことに課題がみられました。ひし形についても同様の課題がみられます。
- ・「変化と関係」の領域において、果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ問題で、数量が変わっても割合は変わらないことを理解していない児童が多くみられます。他にも、百分率で表された割合と基準量から比較量を求めることや、伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを式や言葉を使って書くことにも課題がみられます。
- ・「データの活用」の領域において、分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように遊びを選ぶ問題で、分類整理されたデータをもとに、目的に応じてデータの特徴をとらえ考察することに課題がみられます。

学校では、繰り返し学習を計画的に実施するとともに、学習した算数の知識や技能を日常生活で活用する機会を増やし、基礎・基本の学習内容が身につくようにしていきます。また、計算コンクールを引き続き実施し、計算の定着を図ります。また、下学年の問題にも定期的に取り組み、確実に身に付くようにしていきます。その際、誤答を含めた複数の回答を提示し、間違いやすいポイントを話し合うことで、正しく計算するために必要な決まりや考え方を確認していくようにします。

児童のみなさんは、落ち着いて問題文を読み、正確に計算することを心がけましょう。ご家族でお菓子や飲み物を分けたり、体育で記録を測ったりする時など、算数には活用できる場面がたくさんあります。いろいろな場面で、「算数ではどうなるのかな？」と考えてみるといいですね。

理 科

〈学習指導要領の4領域（「エネルギー」を柱とする、「粒子」を柱とする、「生命」を柱とする、「地球」を柱とする）の結果から〉



【良いところ】

- ・「粒子」を柱とする領域において、水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ問題で、メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けることができます。
- ・「エネルギー」を柱とする領域において、光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てる実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ問題で、問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録することができます。
- ・「生命」を柱とする領域において、ナナホシテントウのたまごから見いだされた問題をもとに、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ問題で、問題を解決するために必要な観察の視点をもとに、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができます。

【伸ばしたいところ】

- ・「地球」を柱とする領域において、冬の夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ問題では、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができている児童が想定よりも多く、課題が見られます。
- ・「生命」を柱とする領域において、昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ問題では、頭、胸、腹といった昆虫の体のつくりについての理解に課題がみられます。
- ・「エネルギー」を柱とする領域において、鏡ではね返した日光を水の入った色の違う缶に当てて水の温度を調べる実験で、問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果をもとにして書く問題では、自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことに課題がみられます。
- ・「粒子」を柱とする領域において、鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く問題では、水は水蒸気になって空気中に含まれていること理解していない児童が多く、課題がみられます。

学校では、実験の結果と考察などをまとめる際に、キーワードになる言葉を示し、結果と考察を関連付けてまとめる学習活動に力を入れていきます。また、各領域で伸ばしたい単元に関する問題にも定期的に取り組み、確実に身に付くようにしていきます。

児童のみなさんは、授業中で行う実験や観察に使う器具の名前とその使い方を、しっかりおぼえましょう。また、自分の導き出した答えについて、自分の考えやそのわけを書く問題が苦手なようなので、実験結果やグラフなどをもとに考えて分析することができるといいですね。

学習・生活の様子

質問に肯定的に答えている児童ほど学力調査の正答率が高くなる傾向が見られます。

◎は、よい傾向、▲は、心配な傾向



【家庭や地域に関すること】

◎ほとんどの児童が朝食を毎日食べており、毎日同じ時刻に寝たり起きたりできる児童の割合も高く、規則正しい生活が身についています。

◎今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合が、国・県平均と比べて高い傾向があります。

▲携帯電話やスマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていない児童の割合や、

▲平日1日あたりのゲームをする時間の長い児童の割合が、国・県平均と比べて高く、学習をする時間（学習塾、家庭教師等を含む）が、国・県平均と比べて少ない傾向があります。

【自分自身に関すること】

◎ほとんどの児童が将来の夢や目標を持っています。また、自分にはよいところがあると思っている児童の割合も高くなっています。

◎ほとんどの児童が、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っています。

◎読書が好きな児童や自然の中で遊ぶことや自然観察をする児童の割合が、国・県平均と比べて高い傾向があります。

▲普段から新聞を読んでいる児童の割合が低いようです。学校の掲示板に新聞コーナーをつくり小学生新聞を掲示するのでそれを読んだり、世の中の新しいできごとに注目したりする習慣を身につけましょう。

【学校に関すること】

◎多くの児童が、学校に行くのが楽しいと思っています。また、友達と協力することを楽しいと感じています。

◎多くの児童が、学校で先生は、自分のよいところを認めてくれていると感じています。

◎学校で、タブレットやコンピュータ等のICT機器をほぼ毎日使っていると答えた児童の割合が、国・県平均と比べて非常に高い傾向があります。また、多くの児童が友達と意見を交換する場面や自分の考えをまとめ、発表する場面でも週3回以上使っていると答えています。

▲ほとんどの児童が算数の勉強は大切だと思っている反面、算数の問題の解き方がわからないとき、あきらめずにいろいろな方法を考える児童の割合が、国・県平均と比べて低い傾向があります。